

木上小だより

始業式での話（自分を磨こう）

- 我慢する心をもとう
- 思いやりの心をもとう
- 挑戦する心をもとう

第5号 平成30年9月発行

「挑戦する心をもとう」

平成30年度の2学期が始まり1週間がたちました。子どもたちの元気な声が校舎の中に響きわたり、学校も活気にあふれています。

さて、始業式にあたり子どもたちには「挑戦する心をもとう」という話をしました。その例としてロケット工学で有名な糸川英夫博士と発明家のトーマスエジソンの話をしました。糸川博士（イトカワという名前の惑星がありましたね。この人の名にちなんで付けられています）は、還暦を迎えてから一念発起してバレエ（踊る方）を習い始めたそうです。はじめは、足が全然上がらずやめようと思ったそうですが、毎日2時間、タンスの一番下の引き出しの高さから練習をはじめ、1年後には頭の高さまで足が上がるようになったそうです。いくつになっても挑戦する心は素晴らしいですね。

また、エジソン（電球や蓄音機を発明したことで有名ですね）は、一万冊（ページにして350万ページ）の本を読んだと言われていています。一日一冊読んで30年はかかる計算です。びっくりするほどの努力家です。



このような、2人の例をあげて、「何か目標を決めてその目標に挑戦する2学期にしよう」と子どもたちに呼びかけました。子どもたちの人生はこれからです。どこに、どんなきっかけがあるかもしれません。でも、そのチャンスを生かせるかどうかは、挑戦してみようと思う心や、やり始めたことを少々辛いことがあっても我慢して続けることのできる力が必要になってきます。そんな心の強さやしなやかさを学校生活を通して育てたいと思っています。2学期もどうぞよろしくをお願いします。

言葉にはエネルギーがある

「さつきはごめんね。」子ども同士がトラブルになったとき、そんな一言で両方が笑顔になるところがあります。「ぼくも、〇〇して悪かったです。ごめんなさい。」そんな言葉を聞いて、言われた方の子どもが「気持ちがあすきりした」ということもあります。

学校は、勉強を教えるところですが、学校の教育活動全体を通じて、他人とどう交わっていくか、どのように振る舞えば良いかといった社会性も身につけていきます。そのようなコミュニケーション能力の中でも重要なものが言葉です。

言葉には、大変なエネルギーがあります。人を傷つけるような言葉（学校ではちくちく言葉などと言ったりします）は、人の心を暗くしたり、悲しくしたりします。逆に勇気づけるような言葉（ふわふわ言葉）は、辛かった気持ちを急に元気にしたり、時には生きる希望を与えてくれたりもします。

言葉は、プラス面にしてもマイナス面にしても大きな力を持っています。だからこそ、丁寧な言葉や美しい言葉を使い、子どもたちの言語環境を整え、子どもたちの言葉の使い方を豊かなものにしていかなければならないと思っています。

木上小スナツプ

8月24日には、錦町の建設業の方々に結成されている防災ボランティアの皆様にも、環境整備を行っていただきました。私たちでは到底できない高い木の枝を落としていただいたり、大きな石を動かしていただいたりしました。おかげさまで安全で過ごしやすくなりました。暑い中に大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。



【錦町防災ボランティアの活動】



9月3日に八代河川事務所のご協力で、5年生が球磨川の水生生物調査を行いました。この取組は、身近な球磨川の生態系を知るとともに、自然を大切に守っていかうとする態度を育てるなど、環境教育の一環として行われています。子どもたちは、川の水を網ですくうなどして、川に住んでいる水生生物を探して観察しました。

1学期に植えた人権の花が夏を越えて元気に育っています。ひまわりは背が高く中には2m近くになっているものもあります。子どもたちの中には、朝から水やりをして一生懸命お世話をしてくれる子もいます。花と一緒に思いやりの心も育ってくれればと思っています。



【イートン・メーガン先生】【ペティート・カーラ先生】

8月から、新しいALTの先生が赴任されました。名前はメーガン先生とカーラ先生です。メーガン先生はアメリカ合衆国からで、カーラ先生はジャマイカからおいでになりました。

2学期はメーガン先生が木上小においでになります。早く子どもたちと仲良くなって、楽しく勉強できるといいですね。